

基本目標 6

交流が生まれ、活力に満ちたまち

【産業振興・交流】

政策 01

個性を生かし、能力を発揮して
生涯活躍できる環境を創る

- 【総合戦略】 施策1. 農業の振興(成長産業化支援、次世代の担い手確保)・・・154
- 【総合戦略】 施策2. 起業・創業支援・企業立地の推進……………156

政策 02

交流により、人が集い
にぎわうまちを創る

- 【総合戦略】 施策1. 地域資源を生かした観光の振興(改めて和気清麻呂、和気広虫に
光を当て、歴史・文化遺産を活用し国内・国際交流を推進する。)・・・158
- 【総合戦略】 施策2. スポーツを核とした交流の推進……………160

政策 03

にぎわいと雇用を生み出す
地域産業の活性化を促す

- 【総合戦略】 施策1. 中小企業・小規模事業者の振興……………162

政策 04

循環型資源の利活用により、
持続可能な産業構造を創る

- 【総合戦略】 施策1. 里山林の利活用と保全の推進……………164

**政策
01****個性を生かし、能力を発揮して
生涯活躍できる環境を創る****施策1 農業の振興（成長産業化支援、次世代の担い手確保）****施策目標**

地域の特性を活かした農業が盛んに行われており、農業への関心が高まることで新たな担い手が育ち、安定的で持続可能な農業経営が進められています。

現状と課題

全国的な少子高齢化、人口減少の傾向が強まるなか、本町では移住定住施策の推進により、新規就農を希望する移住者も増えています。しかし、大部分の農地を占める米作農家においては、米価下落により採算性の悪くなった農業経営を次世代に引き継ぐことができず、農業者の高齢化や後継者不足の問題が深刻化しています。

農業従事者の減少は、和気町のみならず全国の農業の基盤を揺るがすものです。地域農業の担い手への農地の集積・集約化など、“農地利用最適化”の取組が最優先の課題であり、その基礎となる“人・農地プラン”の策定をすべての地区で進めていく必要があります。

また、新規就農を検討する場合、収入のない技術習得期間に加え、高額な初期投資、その後の農業収入の低さが、農業を職業として選択することへの障壁となっています。これらの解決のため、新規就農者への資金、技術習得等の支援、そして、高付加価値作物の推進など“もうかる農業”への転換を図り、農業所得向上につなげていく必要があります。

高齢化、後継者不足による農業従事者の減少に伴い、耕作放棄地は年々増加しており、中山間の地域では顕著にその傾向が見られます。耕作放棄地の増加は景観を損ねるだけでなく、雑草の繁茂により、害獣の住処になるなど、近隣農地への悪影響が懸念されます。また、将来、地域農業の担い手へ集積するためにも農地の良好な保全を継続していく必要があります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
認定農業者数	経営体	28	30	35	産業振興課
新規就農者数実績	人	4	7	10	産業振興課
耕作放棄地面積	ha	52.3(R1)	50.0	45.0	産業振興課
有害鳥獣被害額（水稻）	千円	900(R1)	700	500	産業振興課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 地域農業の担い手、新規就農者の育成	地域農業の担い手や新規就農希望者の技術習得、初期投資の資金等、導入期における支援の充実を図ります。また、本町での就農をイメージできるよう農業体験等の観光プログラム開発を推進します。 <具体的事業> ・ 就農準備講座・農業実務研修等 ・ 農業体験等の観光プログラム推進	産業振興課
2 もうかる農業への転換	効率的運営のため地域農業の担い手への農地集積・集約化、スマート農業等先進技術を活用した作業の軽労化を図ります。農業事業者の経営所得安定化のため、高付加価値作物への転換や、農業の六次産業化を推進し、農業者の所得向上につながる取組を支援します。 米価下落が本町の農業振興に大きく影響していることから、米の新たな販路、販売手法の開拓を推進します。 <具体的事業> ・ スマート農業等先進技術の活用 ・ 高付加価値作物の推進 ・ 六次産業化の推進 ・ 米の新たな販路開拓	産業振興課
3 耕作放棄地の解消	景観及び里地里山環境の保全と将来の担い手へのニーズに応えるため、耕作放棄地の解消を図ります。 農地パトロールによる耕作放棄地の早期発見と利用意向の確認により荒廃化を抑制します。また、人・農地プランにより貸し手・借り手のニーズの把握及びマッチングを行い、耕作放棄地の有効活用を促進します。 <具体的事業> ・ 農地パトロール・農地利用意向調査の実施 ・ 農地の集積・集約化	産業振興課
4 鳥獣害対策の推進	農業者の営農意欲低下を招かないよう鳥獣害対策を推進します。捕獲活動を助成することで、有害鳥獣の個体数抑制を図ります。また、防護柵設置に対する助成により作物被害抑制、農地保全を図ります。 <具体的事業> ・ 有害鳥獣捕獲事業補助金 ・ 野猪等防護柵設置事業補助金	産業振興課

関連する個別計画

和気町農業振興地域整備計画、新規就農者等確保計画、人・農地プラン、和気町鳥獣被害防止計画

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
新規就農者は、創意工夫によって早期に自立した営農確立を目指します。 農地所有者は、地域農業の担い手へ農地を譲渡、貸出等、農地の集積・集約化に協力します。	新規就農者の導入支援や六次産業化に向けた取組への支援を行いつつ、本町での就農をイメージできるよう農業体験等の観光プログラムを積極的に立案します。

政策
01個性を生かし、能力を発揮して
生涯活躍できる環境を創る

施策2 起業・創業支援・企業立地の推進

施策目標

若者や移住者の起業が増え、地域の産業が活性化しています。また、新たな企業立地が進み、地域に安定的な雇用が創出されています。

現状と課題

近年、町外から様々な技術や知識を持った移住者が増えています。今まで本町になかった分野の店舗や事業所の出店などが期待できることから、和気商工会や地域金融機関との連携を進め、若者や移住者の起業・創業支援を行っていく必要があります。また、新型コロナウイルスの感染拡大を機に、都市部の企業はリモートワークを推進しており、地方でのサテライトオフィス※を活用する事例も出て来ています。本町においても都市部から移住した若者世代を中心にリモートワークを活用した働き方をする人が増えつつあり、サテライトオフィスの誘致など若者に魅力のある雇用を増やしていく取組が求められています。

統廃合により廃校となった学校跡地については、跡地利用の公募を行いました。2つの小学校はまだ利活用方法が決まっていません。町による利活用だけでなく、民間資本の活用、民間企業への貸し出しも視野に入れながら、地域の活性化につながる利活用を検討する必要があります。若者が魅力を感じる就労環境の整備を目的に、オンラインワーク従事者が集まるようにぎわい創出複合施設の整備などについても検討する必要があります。

企業誘致については、地震や津波などの自然災害リスクの少なさや高速道路などの交通の利便性の良さをPRするだけでなく、企業側が懸念する「従業員の確保」についても対策を行う必要があります。また、現在企業誘致の適地は、令和3（2021）年度から販売を開始予定の「矢田団地」しかないため、新たな企業用地の確保が課題です。適地調査による用地の選定や、民間所有の空き用地等の情報収集を行う必要があります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年 (R3~R7)	令和12年 (R3~R12)	
町の支援による創業件数（累計）	件	3	25 (R3~R7)	50 (R3~R12)	産業振興課
にぎわい創出複合施設の設置（累計）	件	0	1	2	まち経営課 財政課
企業立地件数（累計）	件	1	3	6	まち経営課
企業誘致等による雇用創出数（累計）	人	15	80	125	まち経営課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 起業・創業支援	和気商工会や地域金融機関と連携して、起業家の発掘及び起業支援を進めます。 ＜具体的事業＞ ・ 起業・創業支援事業	産業振興課
2 若者や子育て世代に魅力のある就労環境の整備	空き家や廃校跡地を活用したサテライトオフィスの誘致や、レンタルオフィスを持するにぎわい創出複合施設の整備など、若者や子育て世代に魅力のある就労環境づくりに取り組みます。 ＜具体的事業＞ ・ サテライトオフィスの誘致 ・ にぎわい創出複合施設の整備	まち経営課 財政課
3 企業誘致の推進	立地意向のある企業の情報収集を行い、トップセールスを含む企業誘致を積極的に行います。また、企業誘致ホームページを改修し、本町の災害リスクの少なさや交通の利便性の良さなどの魅力を分かりやすく紹介します。 ＜具体的事業＞ ・ 企業誘致推進事業	まち経営課
4 企業用地の確保	適地調査や民間が所有している空き用地等の情報収集を行い、企業用地の確保を図ります。 ＜具体的事業＞ ・ 企業用地適地調査事業	まち経営課
5 従業員確保の支援	ハローワーク及び近隣市と連携して合同の就職面接会等を開催し、企業の人材確保の支援及び地元の若者の定住支援、Uターン就職の促進を図ります。 ＜具体的事業＞ ・ 就職面接会開催事業	まち経営課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
町民は、町の支援施策も利用して地元で就職または起業し、やりがいや充実感を感じながら働きます。 企業は、町が開催する企業面接会などに積極的に参加し、地元住民の採用拡大に努めます。	商工会、金融機関と連携して起業家増加に努めます。また、地元企業と連携して面接会や説明会を開くなど、地元雇用の拡大を図ります。

政策
02**交流により、人が集い
にぎわうまちを創る****施策1 地域資源を生かした観光の振興（改めて和気清麻呂、和気広虫に
光を当て、歴史・文化遺産を活用し国内・国際交流を推進する。）****施策目標**

近隣地域を含めた観光ルートが人気で、年間を通して観光客が訪れており、町内の観光消費も向上しています。農業や田舎文化など地域資源を生かした体験型プログラムにより交流人口が増加し、リピーターや移住・定住にもつながっています。

現状と課題

本町の観光振興は、これまでの取組により、藤まつりは春の、和文字焼きまつりは夏の風物詩として県内外に認知され、多くの人に親しまれるようになりました。また、和気鵜飼谷温泉を始め、片鉄ロマン街道、岡山県自然保護センターなどは、一年を通して多くの方にご利用いただいています。しかし、各観光スポットの知名度は低く、滞在時間の短さから町内での観光消費につながっていないため、地域資源の魅力の深掘りや連携、そして効果的な情報発信によって新たな魅力を生み出す工夫が重要になってきます。

町内には観光振興の拠点である和気鵜飼谷温泉を中心に、アウトドア系の地域資源が点在しており、これらを連携させたPRが求められています。また、和気清麻呂、和気広虫、津田永忠など本町ゆかりの偉人たちの功績に今一度スポットを当て、ひときわアピールし、観光に関連付ける必要があります。

さらに、広域的には、旧閑谷学校（備前市）、備前焼（備前市）、日本刀（瀬戸内市）など、外国人観光客にも知名度の高い観光資源があることから、近隣市町との広域連携を図り、国内外の観光誘客につながる観光プログラムの開発も求められています。

近年、SNSの普及により個人が実体験を発信するニーズが高まっています。住民とも協働し、アウトドア、史跡めぐり、農業や田舎文化など、様々な分野の地域資源を生かした体験型観光プログラムの開発にも取り組み、滞在時間の延伸及び観光消費の拡大につなげていく必要があります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
和気鵜飼谷温泉利用者数（宿泊）	人 (R元年度実績)	1,890 (11,457)	12,000	13,200	産業振興課
和気鵜飼谷温泉利用者数（日帰入浴）	人 (R元年度実績)	24,642 (111,925)	125,000	130,000	産業振興課
藤まつり参加実績	人 (R元年度実績)	0 (57,879)	64,000	70,000	産業振興課
美しい森利用実績	人 (R元年度実績)	1,796 (2,068)	2,700	3,400	産業振興課
りんご販売量	千円 (R元年度実績)	562 (1,057)	2,000	4,000	産業振興課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 和気鵜飼谷温泉を中心とした観光プログラムの創出	本町の観光の拠点である和気鵜飼谷温泉を起点として、地域資源をつなぎ合わせる観光プログラムの創出を推進します。また、既存の観光資源についてもその魅力を深掘し、関連する観光資源と連携を図ります。 <具体的事業> - 和気鵜飼谷温泉を起点とした観光プログラムの開発 - 既存観光資源の魅力再発見	産業振興課 総務事業課
2 アウトドア系観光資源の有効活用	本町のアウトドア系スポットは、連携が容易なだけでなく、感染症を避ける新たなニーズとして利用者が増加傾向にあり、成長が期待できることから早急に観光プログラムを創出します。また、「アウトドア＝和気」というイメージを発信するため、各スポットを統一的なブランドとして情報発信していきます。 <具体的事業> - アウトドアスポットを活用した観光プログラムの開発 - アウトドアスポットとしてのブランド戦略	産業振興課 総務事業課
3 体験型観光プログラムの開発	SNS等の普及により特別な体験へのニーズが高まっていることから、農業体験、田舎文化体験、ドローン操縦体験、移住体験など、町の魅力を深く感じられる様々な分野の体験型観光プログラムを開発することにより交流人口の増加を図っていきます。 <具体的事業> 体験型観光プログラムの開発	産業振興課 総務事業課 まち経営課
4 広域連携による外国人観光客の誘客	本町だけでは誘客の難しい外国人観光客を呼び込むため、世界的に知名度の高い観光資源を有する近隣市町と連携を図ります。外国人観光客のニーズに合わせた観光振興を行います。また広域連携により地域を通しての滞在時間延伸を図ります。 <具体的事業> - 広域観光プログラムの開発 - 外国語版パンフレット等の作成	産業振興課
5 歴史文化、文化遺産を生かした観光振興	和気清麻呂、和気広虫、津田永忠など、和気町ゆかりの人物の功績を再評価し、町内に点在する史跡と併せて観光振興、地域振興につなげていきます。歴史民俗資料館を活用し、地域の歴史を学び、体験できる観光プログラムの開発を推進します。 <具体的事業> - 歴史文化をテーマにした観光振興 - 歴史民俗資料館魅力化事業	社会教育課 産業振興課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
住民は、あらゆる分野で地域資源の魅力を再発見し、郷土愛を育みます。また、和気町を訪れた観光客等に町の魅力を伝える活動に参加します。	町は、観光資源だけでなく、農業や歴史・文化など様々な分野の地域資源が持つ魅力を生かし、住民との協働により観光プログラムを開発します。

政策 02

交流により、人が集い にぎわうまちを創る

施策2 スポーツを核とした交流の推進

施策目標

スポーツを中心とした新たな交流空間を創出することで、町外から多様な人々が集い、交流人口が増加しています。

現状と課題

スポーツは感動を与えるだけでなく、地域への社会的効果、経済効果を創出し、持続的なまちづくりや地域の活性化に資する大きな可能性を秘めています。また、スポーツ大会やスポーツアクティビティ等への参加料や附随する各種イベント等における事業収入のほか、選手や観戦者、観光客等、町外から地域を訪れる人々の滞在に係る消費（宿泊、飲食、観光など）といった経済効果も期待できます。

本町のような中山間地域においては、高低差を利用しヒルクライムやトレイルランなどが楽しめる場所としての可能性や、サイクリングやランニングに最適な片鉄口マン街道の利活用策も重要になってきます。

また、全国各地で総合運動施設の新設・建替構想が検討されており、スポーツ庁をはじめ、文部科学省による支援メニューのほか、国土交通省、内閣府や経済産業省などの各種制度も活用できる等、国として各地域における改革を後押ししている状況にあり、町としてもスポーツを核とした新たな交流施設の整備に向け対策を講じる必要があります。

スポーツという新たな観光の切り口によって地域の誘客ターゲットを拡大できる等、幅広い関連産業の活性化や交流人口拡大による地域活性化に大きく寄与することから、スポーツによる地域活性化の実現に向けて、官民が連携・協働してスポーツツーリズムの需要拡大・定着化に取り組んでいく必要があります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
レンタサイクル利用実績	台 (R元年度実績)	379 (1,004)	1,500	2,000	産業振興課
各種大会の実施数	件 (R元年度実績)	40	45	50	社会教育課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 スポーツによる町民交流の活性化	和気町の文化や地理的環境を活かした町民だれもが取り組める中長期的なスポーツの振興を進めます。体力づくりや健康づくりだけでなく、町民同士や地域同士での交流を生み出し、新たな地域活動の創出と活性化につなげます。 ＜具体的事業＞ ・町民に親しまれる特徴的なスポーツの振興	社会教育課
2 各種大会等の誘致	和気駅や和気インターチェンジに近いという和気町体育館の立地を活かし、岡山県・中国地方・全国といったスポーツに関する大会を誘致するとともに、交流人口の増加を図ります。 ＜具体的事業＞ ・スポーツ大会等の誘致	社会教育課
3 交流人口の創出	和気町体育館や交通公園などを拠点にしたトレイルラン、ヒルクライム、サイクリング、ランニングなどのモデルコースを設定し、町内外に情報を発信し、町外からの交流人口の増加に努めます。 ＜具体的事業＞ ・自然を活かしたアクティビティの創出	産業振興課 社会教育課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
様々なスポーツや関連するイベントに参画するとともに、他地域からの参加者を歓迎し、積極的に交流します。	地域や関係団体・町関係部局などとともに、大会の誘致やサイクリングやランニングなどの新しいモデルコース策定を推進して情報発信し、交流人口の増加を推進します。

**政策
03****にぎわいと雇用を生み出す
地域産業の活性化を促す****施策1 中小企業・小規模事業者の振興****施策目標**

新しい技術やサービスで新ビジネスに挑戦する中小企業・小規模事業者が増えており、地域経済が発展しています。

現状と課題

人口減少や少子高齢化等に起因する地域課題は多様化、深刻化し、町内の中小企業・小規模事業者の経営は厳しさを増していますが、このような状況下にあっても新たな分野、新事業に果敢に挑戦する企業に対して効果的な支援が行えるよう、商工会や地域金融機関等と連携して取り組んでいく必要があります。

新型コロナウイルス感染症のように町内の消費が短期間で大きな影響を受ける事態に備え、国の支援策はもとより、町独自の取組として、最も影響を受けている業種への効果的支援が行えるよう情報収集に努める必要があります。

本町には魅力ある農産物や観光資源が多くありますが、これらを活かした特産品開発の取組は始まったばかりであり、更なる充実が求められます。和気商工会が行うブランド認証制度の取組を活性化させる必要があります。

未来技術は有効に活用することで、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、産業を大きく向上させることが期待されます。町としても Society5.0 の実現に向けた取組などを進め、新サービスが生まれる土台づくりを行う必要があります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
創業支援事業利用件数（県・町）	件	6	10	10	産業振興課
特産品ブランド認証件数（累計）	件	30	40	50	産業振興課
にぎわい創出複合施設の設置（累計）	件	0	1	2	財政課 まち経営課
ドローン等の未来技術を活用したサービス創出数（累計）	件	1	3	6	まち経営課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 商工会の支援と連携	和気商工会は、中小事業者や起業者の経営指導・相談等、商業振興の中核的役割を担う存在であり、その安定的な活動を支援するため、補助金を交付します。また、商工会との連携により、中小事業者や、起業を目指す若者への経営支援策を検討します。 <具体的事業> ・ 商工会への補助金	産業振興課
2 商工業者への支援	和気商工会や地域金融機関等との連携を強化し、若者等の起業支援や経営指導を行います。固定資産税減免等により製造業者の設備投資を促進します。また、新型コロナウイルス感染症や大規模災害などにより経済、社会情勢が変化する中においても中小企業・小規模事業者が事業を継続できるよう経営を支援します。 <具体的事業> ・ 起業支援・経営指導の充実 ・ 製造業者による設備投資等促進 ・ 感染症、災害等発生時の経営継続支援	産業振興課 税務課
3 特産品の開発、販売促進	和気商工会の特産品ブランド認証制度の取組を推進します。認証を受けた商品が、インターネット等により全国展開につながるなど、メリットを感じられる仕組みを構築し、認証を希望する事業者・特産品の増加を図ります。 また、町内の魅力ある農産物や観光資源を活用した特産品開発、情報発信による利用促進を図ります。 <具体的事業> ・ 特産品ブランド認証制度の推進 ・ 町内農産物等の利用推進	産業振興課
4 未来技術活用による地域産業の活性化支援	ドローンを活用した取組を進めることで、様々な地域課題の解決・改善を目指すだけでなく、新サービスの創出や労働機会の拡大、人の流入による地域経済の活性化を図ります。 <具体的事業> ・ ドローン活用推進事業	まち経営課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
事業者は、近代化など創意工夫により経営の合理化を図り、経営を継続します。また、地域資源を活かした特産品の開発等を行います。 和気商工会は、若者の起業支援や商工業者の経営指導等を行います。	町は、商工会や地域金融機関等と連携して、若者の起業支援や商工業者の経営支援策を立案・実施します。

政策 04

循環型資源の利活用により、 持続可能な産業構造を創る

施策1 里山林の利活用と保全の推進

施策目標

山林の計画的伐採により災害に強い森林が形成されています。また、森林資源が有効に活用され、林業が活性化しています。

現状と課題

中山間地域である本町の大部分は山林に囲まれており、かつては建築資材や燃料木としての需要も見込まれ、造林事業への取組が盛んに行われていましたが、今日では、森林資源への需要は大きく減少し、スギやヒノキの人工造林が資源の利用期に移行しているにも関わらず放置され、里地里山の荒廃化が進んでいます。

森林には、表層崩壊や土砂流出を防止する林地保全機能があります。針葉樹の人工造林においてこの機能を十分に発揮させるため、適正な管理により根系や下層植生の発達を促進し、土壌を安定させる必要がありますが、長年の放置により、間伐や枝打ちなどがなされず光の通らない人工林では、下層植生が消失し、土壌侵食、土砂崩れが懸念されています。

災害に強い森林づくりを推進するためには、林地保全機能が強いとされる針葉樹と広葉樹が混在する針広混交林を目指し、計画的な伐採を行う必要がありますが、森林資源に価値がない状態では、個人が所有する山林で伐採が計画的に進むことは期待できません。伐採に伴い発生する大量の木材の新たな活用方法を模索する必要があります。町内全域での定期的な伐採を促すには、長期的かつ安定的に森林資源の活用が見込まれる木質バイオマス発電等への活用についても検討していく必要があり、併せて町内の林業事業者の育成等の取組も求められます。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
森林経営計画策定面積	ha	226	1,300	2,300	産業振興課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 災害に強い森林形成	放置された山林を計画的に伐採することで、災害に強い針広混合林形成を推進します。計画的伐採に必要な森林経営計画の策定を山林所有者に促します。 <具体的事業> 森林経営計画策定の推進	産業振興課
2 林業の振興	森林資源に新たな価値を見出さなければ、山林の計画的伐採や災害に強い森林形成は進みません。 伐採により生じた木材の有効活用方法を模索することで森林の計画的な管理・運営を促進し、林業の活性化を図ります。 また、効率的な林内施業や計画的伐採に必要な林道等の路網整備を促進します。 <具体的事業> - 森林資源の有効活用 - 木質バイオマス発電等への活用 - 林道整備事業等への助成	産業振興課

関連する個別計画

和気町森林整備計画、森林経営計画（経営体）

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
山林所有者は、森林の計画的伐採に取り組みます。 林業事業者は、事業採算性の取れる木材の有効活用方法を検討します。	森林の計画的伐採がなされるよう、山林所有者の森林経営計画策定を促進します。 森林資源の有効活用方法を検討します。

